

開催地名	和歌山県田辺市
開催日時	令和7年11月21日(金) 10:30 ~ 11:15
開催場所	田辺東部小学校
語り部	吉田 亮一(宮城県仙台市)
参加者	田辺東部小学校児童(4年生) 32名
開催経緯	総合的な学習の時間で取り組んでいる防災学習を、さらに深めることを目的としている。地域的に高台に位置しているため津波の心配は少ないと思われるが、周辺から多くの避難者が集まることが予想される。そのため、避難所の設営や運営が非常に重要になると感じている。防災そのものも大切だが、避難所運営の計画についても大切に取り組んでいきたい。
内容	<p>(1)自然災害と危機感を持つ大切さ</p> <p>東日本大震災は、皆さんが生まれる前の2011年3月11日14時46分に発生したとても大きな地震。本日はそのお話をし、皆さんに“防災”について勉強してもらおうと思う。自然災害には、地震、津波、豪雨、豪雪、火山噴火、竜巻などさまざまな種類がある。それぞれ発生するメカニズムは異なるが、すべてに共通していることは「地球が動いている」という事実である。地球が活着ているからこそ、私たちが生きられるが、その一方で災害とも共に暮らしていかなければならない。そのために必要なのが「危機感」である。大きな地震が来たらどうするか、台風が直撃したらどうするかを日頃から考えることが備えにつながる。</p> <p>(2)日常でできる備えと家庭内の安全対策</p> <p>防災の基本は、普段から備えておくことである。例えば、スーパーの惣菜やお弁当の容器を取っておく、これは断水時にお皿の代わりに使えるし、サランラップを皿に敷いて洗い物を減らす工夫なども役立つ。</p> <p>また、部屋の整理整頓も大切である。散らかった部屋では地震時につまずいて怪我をし、避難が遅れる危険がある。寝る位置の周囲に本棚やガラスがないか確認し、家具の固定やテレビ台のブレーキ(ロック)をかけておくことも必要である。学校でも同じで、職員室や教室の危険箇所を知り、安全を考える習慣が重要である。</p> <p>(3)地震時の正しい身の守り方</p> <p>通学路や校内には、ブロック塀、看板、自動販売機など、地震で倒れる危険物が多い。揺れを感じたらまず身を低くし、頭を守る行動が必要である。重いランド</p>

セルを頭に乘せてしゃがむのは難しいので、背負ったまま低い姿勢を保つ方が安全である。

また、机の脚を掴む位置にも注意が必要で、上から押されても倒れない場所を抑えることが大切である。就寝中の揺れには「カエルの姿勢」になることで、揺れから身を守れる。「非常用持出袋」を用意しておきましょうと言われたことがあると思うが、実はこれより先に使うものがある。それは靴下・スニーカー・防犯ブザー・携帯ラジオ・ヘッドライト・防寒用のフード付き雨具など「防災用品6点セット」をリュックに入れ、枕元に置いておくこと。沿岸地域では特に、怪我をすると避難の開始が遅れ、命に関わるからである。

(4)避難所での協力と子どもたちの役割

東日本大震災では、地域の小学生・中学生・高校生が多くの中で活躍した。情報掲示物の分類・作成、物資のケース数や個数の計算、ゴミの管理、掲示板の整備など、避難所運営には多くの子どもたちが関わった。

また、避難所で気を付けなければならないのが“感染症”。インフルエンザやコロナだけではなく、最も怖いのは胃腸炎(ノロウイルス)だった。

自宅避難している方もおり、停電でエレベーターが止まったマンションに住む高齢者の方々のために、非常階段を使って水を運ぶ作業を学生たちが担ってくれた。被災者同士がお互いを思いやり、必要な物資を届けていた。

これから中学生・高校生になる皆さんにも、こうした経験から学び、ただ心配するのではなく「危機感を持って備える」力を身につけてほしいと思う。災害はいつ起きるかわからないが、知識と準備があれば命を守れるからである。

(5)最後に

命を大切にし、人を思いやる気持ちを持ってほしい。周りの人に「大丈夫？何か心配事はない？疲れていない？」そういう優しい言葉を日々かけてあげてほしい。そうやって仲良く暮らしていくこと、そうでなければ災害には勝つことはできない。そして、今日お話ししたことを忘れないでいてほしい。



開催地より

2月1日に田辺市で地域の避難訓練が実施される予定であり、その際に学校としてどのように動くか、また各学年で防災や地震について学年に応じた学習を行い、防災力を高めていく計画を立てている。

本日の講演を通して、有事の際には子どもたち自身も行動する必要があることを実感し、学びにつながったのではないかと感じている。

4年生でも、有事には物を運んだり仕分けをしたりすることがあると知り、良い学びになったようだ。また、生徒からの質問の中でも「自分たちが分かっていないことが多い」と気づく声があり、危機管理意識が高まった様子だった。